

科目名		建築施工 I				
担当教員		渡部 和久		実務授業の有無	○	
対象学科		建築大工科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択		必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方		建築現場における施工計画とプロセス、管理方法など工事の進め方と、基本的な仕組みを座学や事例を通して学ぶ。 1. 建築施工の概要と建築物の基礎の重要性を学ぶ。 2. 建築設計と関係が深いことを認識し、環境に適した各工法の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。				
学習目標 (到達目標)		建築現場における現場の進み方や方法など、各職種ごとに学ぶ。前期は建築のしくみから地業・基礎工事までの流れを学ぶ。工事を通じ建築で必要な専門用語も習得していく。 また、建築士2級の筆記試験範囲にあたる内容のため、合格点に達する習熟度を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①図説 やさしい建築施工、配布プリント等				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	建築施工とは ①建築施工の概要。 ②建築に携わる人々と建築のしくみ。(設計→施工の流れとしくみ) ③建築物の施工形態		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～③を理解する 準備学習：教科書①の予習			
2	地盤調査・測量 ①着工準備に伴う、地盤調査の種類 ②測量機器の種類		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
3	仮設工事 ①着工前準備工事の共通仮設工事・ ②直接仮設工事の違い、 ③確認問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 確認問題を加え答練しより理解度を深める 達成目標：項目①～③を理解する 準備学習：教科書①の予習			
4	土工事 ①土工事に関する、掘削方法や山留め、排水と必要性 ③確認問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 確認問題を加え答練しより理解度を深める 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
	小テスト①		項目1～4から抜粋し小テストで理解度の確認。解答→解説を行う。			
5	基礎地業工事 ①杭・基礎工事の種類、分類など建築物施工の基礎について ②確認問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 確認問題を加え答練しより理解度を深める 達成目標：項目①～③を理解する 準備学習：教科書①の予習			
6	積算 ①建築物の費用に関する概算見積もりと算出方法 ②単価の積み上げによる建築工事全体の価格設定		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
7	施工計画・施工管理 ①施工計画・品質管理・原価管理の必要性和重要性 ②工程計画・工程管理・安全・環境管理の必要性、重要性。		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
8	小テスト②		項目5～7から抜粋し小テストで理解度の確認。解答→解説を行う。			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
期末テストの点に加え、小テスト、授業態度、出席率の内容を総合的に評価 期末試験70%、小テスト20%、授業態度・出席率10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			施工は！建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的に小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。			
実務経験教員の経歴		1級建築士として、建築現場監督業務に約10年携わる。				

科目名		建築施工Ⅱ			
担当教員	渡部 和久	実務授業の有無		○	
対象学科	建築大工科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>・非住宅建築物設計の建築計画、考え方、施工管理の進め方を座学や事例を通して学ぶ。</p> <p>1. 施工管理に必要な、計画工程、品質、安全管理考え方の重要性を学ぶ。</p> <p>2. 条件と規制に則した建築計画の進め方の基本を理解する。</p> <p>3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。</p>				
学習目標 (到達目標)	<p>・非住宅建築物の、施工管理に必要な工程、品質、安全管理を学び建築物の事例から施工管理に活かせる知識を習得する。また、健育士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	<p>①初学者の建築講座 建築施工 (市ヶ谷出版社)</p> <p>②2級建築施工管理 要点テキスト</p>				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	施工管理（施工計画） ①建物の施工事前計画と役所への届出書類。 ②2級施工管理技術検定を見据えた、1年次の復習。		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
2	施工管理（工程管理） ①工事を進めるための工程表の種類、読み方 ②2級施工管理技術検定を見据えた、1年次の復習。		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
3	施工管理（品質管理） ①工事現場に搬入してくる材料の品質の管理の仕方や検査。 ②2級施工管理技術検定を見据えた、1年次の復習。		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
4	施工管理（安全管理） ①工事現場での安全意識、労働基準法、労働安全衛生法等の法律 ②2級施工管理技術検定を見据えた、1年次の復習。		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
5	2級施工管理過去問題等 ①対策授業を実施し、範囲：1年半のすべての復習し、 範囲：1年半のすべての建築現場の施工管理について復習		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
6	2級施工管理過去問題 模擬テスト		方法：大工技能検定過去問題を使ってテスト解説の座学 達成目標：合格基準点に達している。 準備学習：プリント等の予習・復習		
7	建築仕上げ工事 ①タイル・石・建具・ガラス・金属・塗装・内装工事等2級施工管理		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
期末テストは実施せず、施工管理の模擬テスト、過去問題の取り組み状況、本試験の自己採点、小テスト、授業態度、出席率の内容を評価 施工管理模擬試験等70%、授業態度・出席率30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			11月の2級建築施工管理技術検定学科試験に合格することを重要な目的。 施工は建築設計に必要な基礎知識として各工法を理解した上で、施工管理の見聞を広げる。また定期的に小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。		
実務経験教員の経歴	1級建築士として、建築現場監督業務に約10年携わる。				

科目名		建築施工Ⅱ			
担当教員		渡部 和久		実務授業の有無	○
対象学科		建築大工科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	単位数		時間数
授業概要、目的、授業の進め方		<p>建築現場における施工計画とプロセス、管理方法など工事の進め方と、基本的な仕組みを座学や事例を通して学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建築施工の概要と建築物の基礎の重要性を学ぶ。</li> <li>2. 建築設計と関係が深いことを認識し、環境に適した各工法の基本を理解する。</li> <li>3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。</li> </ol>			
学習目標 (到達目標)		建築物の構造躯体である鉄骨工事の分野から学んでいきます。この前期ではそのほかの内外装工事であるいろいろな種類の施工方法や製品管理の仕方、材料の種類など詳しく学び、それが理解できるようになる。後期に目指す2級建築施工管理学科試験を睨んで、詳しく学んでいきます。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①図説 やさしい建築施工 (学芸出版社)			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	屋根工事 ①屋根工事の種類 ②雨仕舞の施工方法			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②の各施工法を理解する 準備学習：教科書①の予習	
2	防水工事 ①防水工事の種類、納まりや手法 ②シーリング工事。			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②の種類、方法を理解する 準備学習：教科書①の予習	
3	左官工事 ①左官工事にかかわる材料の種類 ②工程と施工方法。			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②の種類、方法を理解する 準備学習：教科書①の予習	
4	タイル工事 ①タイルの種類 ②施工方法			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習	
5	石工事 ①張り石工事の種類 ②施工方法			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①の種類、方法を理解する 準備学習：教科書①の予習	
	順次 小テストを実施する。(2回実施予定)			項目4～7から抜粋し小テストで理解度の確認。解答→解説を行う。	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テストに加え、小テスト、出席・授業態度で評価。 期末試験40% 小テスト20% 授業態度20% 出席状況20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				施工は建築設計に必要な基礎知識として各工法を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的に小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。	
実務経験教員の経歴		1級建築士として、建築現場監督業務に約10年携わる。			

科目名		建築施工 I			
担当教員	渡部 和久		実務授業の有無	○	
対象学科	建築大工科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築現場における施工計画とプロセス、管理方法など工事の進め方と、基本的な仕組みを座学や事例を通して学ぶ。 1. 建築施工の概要と建築物の基礎の重要性を学ぶ。 2. 建築設計と関係が深いことを認識し、環境に適した各工法の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。 4. 建築の基本となる構造躯体の主たる構造、鉄筋コンクリート工事の分野を学ぶ				
学習目標 (到達目標)	ここではその種類の施工方法や製品管理の仕方、材料の種類など詳しく学び、それが理解できる様になる。工事方法を通じ建築に必要な専門用語も習得していく。 また、建築士2級の筆記試験範囲にあたる内容のため、合格点に達する習熟度を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①図説 やさしい建築施工(市ヶ谷出版社)				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	基礎地業工事（地業工事） ①地業工事の種類 ②杭工事の工法の種類や工事方法		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
2	基礎地業工事（基礎工事） ①基礎の種類や構造、役目		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習		
3	鉄筋コンクリート工事（鉄筋コンクリートの概要） ①鉄筋コンクリートの構成、種類、施工手順		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習		
4	鉄筋コンクリート工事（鉄筋工事） ①鉄筋コンクリートにおける鉄筋の役割と重要性、 ②鉄筋の施工前検討や組み立て方法 ③製品検査について		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～③を理解する 準備学習：教科書①の予習		
5	鉄筋コンクリート工事（鉄筋工事） ①鉄筋の継手、定着、かぶり厚さの意味 ②確認問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 確認問題で、理解度を確認する。 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
6	小テスト		項目1～5から抜粋し小テストで理解度の確認。解答→解説を行う。		
7	鉄筋コンクリート工事（型枠工事） ①型枠の役割と構成、加工・組立		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習		
8	鉄筋コンクリート工事（型枠工事） ①型枠の解体計画・存置期間・検査の方法 ②確認問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 確認問題で、理解度を確認する。 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
9	鉄筋コンクリート工事（コンクリート工事） ①コンクリートの概要と性質、打設のプロセス ②確認問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 確認問題で、理解度を確認する。 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
10	小テスト		項目7～9から抜粋し小テストで理解度の確認。解答→解説を行う。		
11	鉄骨工事（工場作業） ①鉄骨造の基礎部分のアンカーセットの工法や工程 ②材料の種類、ボルトの種類、 ③加工図、現寸検査などの役割 ④溶接方法 ⑤鉄骨部材の製品検査の方法		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～⑤の工程、方法等を理解する 準備学習：教科書①の予習		
12	鉄骨工事（現場作業） ①鉄骨の建て方の工程 ②アンカーボルト、高力ボルトの役目 ③耐火被覆との密接性		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～③作業、機能を理解する 準備学習：教科書①の予習		
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
期末テストの点に加え、小テスト、授業態度、出席率の内容を総合的に評価 期末試験70%、小テスト20%、授業態度・出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		施工は建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的な小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。			
実務経験教員の経歴	1級建築士として、建築現場監督業務に約10年携わる。				